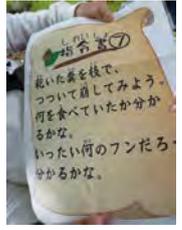


事例報告 H28-6(2)

団体名： 箕面森林ふれあい推進センター・大阪森林インストラクター会・  
箕面ビジターセンター・(豊川北小学校)

|   |   |  |
|---|---|--|
| プログラム名： 森の探検隊   |   |  |
| (1) プログラムの目標  | 森の中で、ポイントごとに置いている指令書(設問)とヒントから、回答を考えたり体験をしたりしながら、森林について考えたり、五感を使っての体験から学ぶ。<br>「森の探検隊」プログラムや箕面ビジターセンター見学などから、身近にある森林やそこに生きる生物を知ること。<br>また、自分たちの生活に、森林や生き物がどのように関わっているのかを知ること。<br>そして、今の森林の現状を理解し、どのように関わっていく必要があるかを学ぶこと。   |  |
| (2) プログラムの概要  | 午前中は、「森の探検隊」プログラムを実施し、午後からは、箕面ビジターセンターで、箕面の生き物展示の見学と水生昆虫の観察、木の実を使った木工作品作りを行う。<br>「森の探検隊」では、4~5名の班で役割分担をして行動する。ポイントで指令書の設問を考え、探検ノートに答えや感じたことなどを記入する。各班には補助者が1名ついて、助言をする。30数ポイントの中から、各班で事前に決めたポイント(5ポイント以上)を回る。ポイントの内容は、森林・昆虫・動植物に関することや体験などがあり、各班共通として、風や鳥の声を感ずるポイントと鹿による被害を考えるポイントを回るようにしている。<br>ポイントで知ったことや考えたことをビジターセンターの展示で確かめたり、水生昆虫観察から森林と川(水)について考えるなど、学習を深める。<br>また、木の実などを使った作品作りで、木や自然により親しむ体験をしよう。 |  |
| (3) プログラムの展開  |   |  |
| 時間数   | プログラムタイトル   |  |
|   | 活動内容  | 指導・支援の方法、ポイント等(教材等)  |
| i n (~の中で)、a b o u t (~について)、f o r (~のために) の視点で活動内容を区分                              |   |  |
| 4   | 森の探検隊のための準備   |  |
|   | 先生との打合せ<br>先生との現地地下見<br>探検ポイントをグループで決める<br>グループ内の役割分担を決める   | 先生に「森の探検隊」について、理解してもらおう。<br>下見により、先生に楽しさを理解してもらおう。<br>安全対策として、服装や支援児童への配慮など、注意すべきことをお互いに確認する。<br>回るポイントの振り分け、役割分担をしよう。<br>当日の服装など親への注意喚起をしよう。  |
| a b o u t - 情報の共有、安全対策  |   |  |
| 2   | 森の探検隊<br>探検隊の補助者  | 子どもたちが自分たちで考えることを優先し、学習が深まるように助言をする。また、森林や生き物について考えることや体感してもらおうを通して、体験から学んでもらうように取り組む。<br>鹿の被害や防止対策から、森林の現状を知ることや何が必要かを考えてもらう。   |
|   |    | <br><br> |
| i n - 森の中での体験   |   |  |
| 2   | フォトフレーム作り、自然工作、水辺の生き物調査、箕面ビジターセンター見学  |  |
|   | ビジターセンターで箕面に生息する生き物や植物について学ぶ<br>水生昆虫観察で昆虫の生態や森と川(水)について学ぶ<br>森で拾った木の実や葉っぱを使ってフォトフレームを作成する。<br>木の実などを作って自然工作をする。   | 4つに分けて、時間を決めて回る。<br>各コーナーで指導者がついて、指導する。<br>地元の箕面の山に生息する生き物や植物を知ること。<br>川の状態(きれい・汚い)によって、生息する水生昆虫の種類が違ってくことや箕面の山の川がきれいなこと、森林と川との関係を知る。<br>自分たちが飲んでいる水について考えること。<br>木の実などの自然にあるものを使って作品を作ることで、親しみを持ってもらう。  |
|  |   |   |
| i n - 工作、生き物展示から、体験や観察から学ぶ  |   |  |

|   |   |  |
|---|---|--|
| 2 | <p>発表会<br/>発表会に参加する</p>  | <p>子どもたちの発表を聞き、子どもたちがこの取組を通して何を学んだかを知ること。<br/>今後の取組に対する反省点や改善点を把握する。</p>  |
|   | <p>f o r、 a b o u t－発表資料の作成、発表する、箕面の森のためにできることを考える</p>  |  |

**(4) プログラムでの連携内容**

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

1. 豊川北小学校 4年生 「森の探検隊」プログラムを実践
2. 大阪青山大学 「環境」の授業として、今年度初めて、学生に体験してもらう。
3. 大阪森林インストラクター会 「森の探検隊」の補助者として、各班について助言を行う。
4. みのお山麓保全委員会 箕面ビジターセンターの運営団体で、ビジターセンター施設の見学、水生昆虫観察の指導、木工クラフト作りの指導を行う。

**(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目**

| 教科・項目、視点 |                                    | 学習内容   |
|----------|------------------------------------|--|
| 感性的経験    | 森林の中に入ること<br>風を感じる<br>鳥の声を聞く       | 地元にある森の中に入る体験をすることで、身近な自然環境を知る。<br>展望台で風を感じたり、森の様子を見ることで気持ちがいい感覚を感じるなど、体感する。               |
| 自然的特性    | 木、植物、動物、昆虫を知る                      | 自分たちの身近にある箕面の山の動物や植物を知ること、自然への関心を深める。<br>水が山から川に流れてきていることを認識する。                            |
| 現状・課題    | 鹿による被害を知る<br>対策を知る<br>どうしたらよいかを考える | 箕面の山が鹿の被害にあっていることや森を守らないといけないことを知る。<br>子どもたちに、箕面の山の素晴らしいところをみんなに知ってもらいたいとの思いが生まれ、伝えたいに繋がる。 |

**(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)**

| 項目                                | E S Dの要素 (7つの能力・態度) の視点から、もっとも重視する視点の内容を記載  |
|-----------------------------------|---|
| ①生きて働く「知識・技能」の習得                  | 「多面的」<br>森林の中で、木や植物、動物のことを観察することや生活の中で利用していることに繋がっていることを理解する。<br>実際の森林で活動することで、生息する動物や植物について興味・関心を持ち、森林についてより知ろうとする意欲が伸びる。<br>森林環境を守るために自分たちができることを考えるなど、自然との関係を考えるきっかけとなる。 |
| ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成    | 「コミュニケーション」<br>活動を通して、自分の役割を果たすだけでなく、グループの中で助け合い、意見を交わしながら、ポイントの設問の答えを考えることができる。自分の意見を押し通すのではなく、友だちの意見を尊重することができる。<br>子どもたちそれぞれがグループで活動することによって、意見を交わし合い、行動を選択できる力が身に付く。    |
| ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養 | 「協力」<br>グループとして伝えたいことを一人で作るのではなく、仲間と推敲し、良いものを作ろうとする姿勢が成長する。<br>自分の役割外のことも進んで協力しようとする協調性が身に付く。<br>何事にも進んで取り組み、仲間と共に何かを成し遂げようとする事ができる。  |

**(7) 実施後、参加者の変化**

「箕面の森の森林は素晴らしい」「こんな良いところが箕面にあったなんて知らなかった。また、来たい。」など自然を感じることに素晴らしさに気付いてもらった。  
鹿柵や木の皮を剥いだ痕、鹿のフンなど、鹿との闘いを知ってもらうポイントを回ったことで、子どもたちの発表からも鹿の被害を伝える発表が多くあり、理解を深めるきっかけとできた。

# 森を利用したアクティブ・ラーニング

～ 森を探検し、箕面の自然や文化について学ぼう！～

「森の探検隊」への参加校を募集します。

## Q. 「森の探検隊」とは？

A. 森の中のポイントを5～6人の班で巡回し、各ポイントごとの指令（課題）を班の全員で考え、答えなどを導き出したり、デジカメで撮影したり、自然について楽しく体験しながら学習できる森林環境プログラムです。体験後は、学校で課題や撮影した写真などについて資料等で詳しく調べたりして探検ノートを補完することで、更に理解を深めることができます。

## Q. 「森の探検隊」でどんな学習が出来る？

A. 例えば、「台場クヌギ」というポイントでは、かつて北摂地域一帯で生産されていた（現在も生産されています）「菊炭」（池田炭）の原木として育ててきた台場クヌギを通して、自分達が暮らしている地域の歴史や文化と森との関わりなどを学習します。

また、学習したことの成果として発表会等で報告することにより、国語力や発表能力の向上など、他の教科にも活用していくことも出来ます。

森の探検隊では、子ども達が学びたいと思うポイントを自分たちで選び、課題に対する答えなどを導き出していくことにより、理科・社会・算数・国語・道徳などを総合的に学ぶことが出来ます。

## Q. 何処で誰が実施する？

A. 箕面市箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）内で実施しています。当センター職員やボランティアの方などが、学校と連携して担当します。

## Q. 実施時期・所要時間は？

A. 通年の実施が可能で、1回の所要時間は2時間程度です。

### ●問い合わせ先

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-75  
林野庁近畿中国森林管理局  
箕面森林ふれあい推進センター  
TEL 06 (6881) 2013

## 箕面森林ふれあい推進センターとは・・・

林野庁近畿中国森林管理局箕面森林ふれあい推進センターでは、箕面市の箕面国有林において、クヌギやコナラなど夏緑樹を主体とし、燃料利用などに活用しながら生態系が保全されてきた、北摂地域の伝統的な里山を再生する取組を、地域の子供達や市民ボランティアの協力を得ながら行っています。

また、この整備過程のフィールドを利用して森林環境教育（森の探検隊等）の取組を推進しています。



写真左から「どんぐりの育苗」、「記念植樹」、「下刈り」、「菊炭」



写真上から「シカとの戦い」、「役に立つ葉っぱ」、「森の中は気持ちいい」、「葉っぱのお面で遊ぼう」の各ポイントと「発表会」

ゲートやネットはなんのため？  
内と外の違いは？

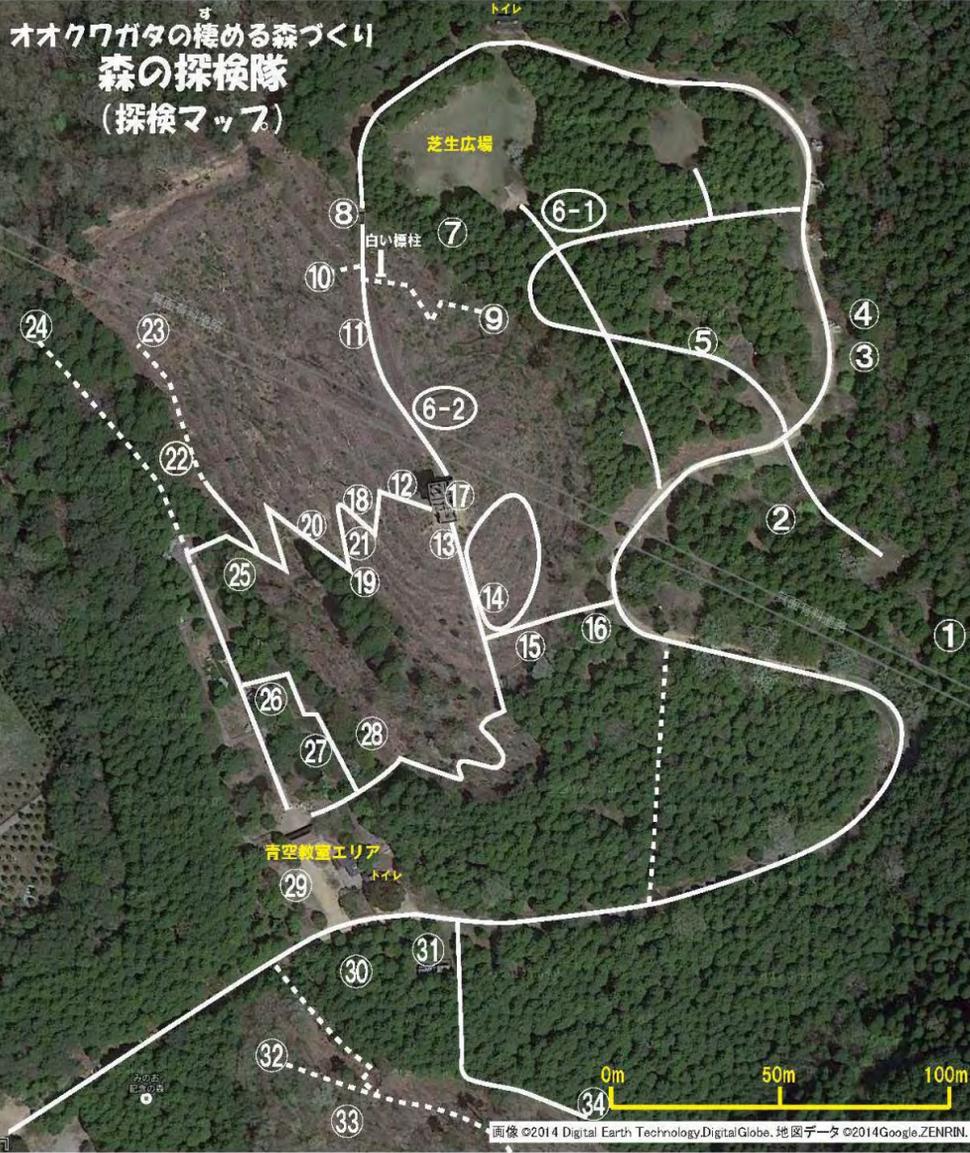
# — 森の探検隊 —



ネットの外には  
黒い糞がいっぱい



木の皮を取ったのは誰だ？



## 探検ポイント



指令書⑦  
 乾いた糞を枝で、  
 つついて崩してみよう。  
 何を食べていたか分かるかな。  
 いったい何のフンだろ  
 分かるかな。

## 探検ポイント



指令書②⑦  
 これは何に見える。  
 エビフライそっくりだね。  
 何でエビフライが山の中に  
 落ちていたのか、  
 その謎を解け。

②⑦のヒント  
 何かがかじってこ  
 なったらしいぞ。  
 元々は松ぼっくりみ  
 たいだ。



撮影：木山雅博氏

## 探検ポイント



指令書②④  
 どんな昆虫がいたかな。  
 なぜ、昆虫が集まった  
 のか。わかるかな。

## 探検ポイント



指令書③②  
 大きな葉っぱだ。  
 なるべく大きな  
 葉っぱをさがして、  
 お面を作ってみよう。

2はん  
 あかたよ!

なぜ虫が集まるのか?  
 木の中に集まっている木と集まらない木がある  
 なぜかと言ってしまうから若  
 じいさんを出さず木はノキでヒノキはじいさんを出さ  
 ない。だからタギに虫が集まるのだ。

なぜ木標柱か?  
 わたしたちが何オ  
 かのころ豊川北植樹  
 記念の標柱がたて  
 られました。たてられ  
 たのはわたしたちが  
 5.6歳のころです!

耳をすませば...  
 森の中で一番風の通る場所がてんぼ  
 うだ。だって、なぜ風が通るかという  
 林の中は、木があるにたいして、  
 木が周りにないの、鳥の声や風  
 の音が聞こえる。

ヒノキさんの年令!!  
 木のところに切り水  
 ているところがあり、白と黒  
 の線がたくさん円状になって、  
 その数を数えらと...  
 30!!  
 ヒノキさんは30才だ。

森に落ちている黒豆  
 森林はひみつがたくさんあ  
 るなと思った。鳥の声や風の音が  
 聞こえたり、木の年令が分かったり  
 じいさんを出さず木や豊川北植樹記  
 念の標柱があたり、シカのぶんざい  
 があたりと、とても自然あふれる森  
 だなと思った。

感想  
 森林はひみつがたくさんあ  
 るなと思った。鳥の声や風の音が  
 聞こえたり、木の年令が分かったり  
 じいさんを出さず木や豊川北植樹記  
 念の標柱があたり、シカのぶんざい  
 があたりと、とても自然あふれる森  
 だなと思った。

## 発表会

